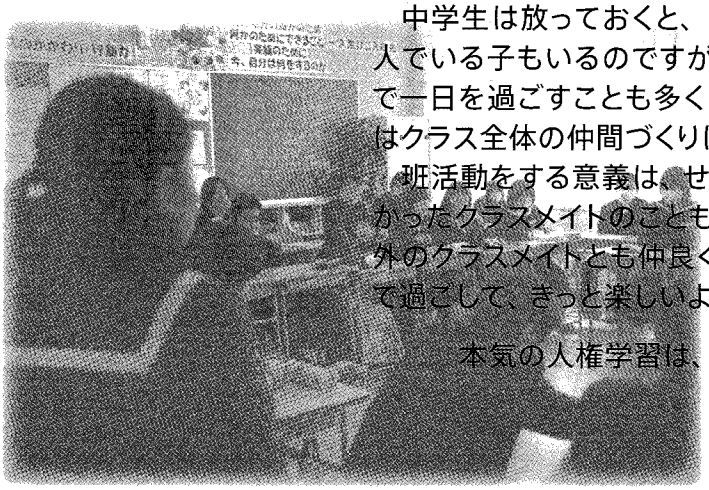
国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ
T-over人権教育研究所・人権こども塾　ニュース

追跡調査の依頼を書面ではなく、直接聞き取った元生徒もいました。
Q．中学生当時、「全体学習（みんなで語り合う人権学習）」をどう感じていたか？
Q．十数年経った今、どう思っているか？
質問項目はこの２点でした。
当時を思い出すと、どうしてもニコニコ笑顔になってしまいます。そんな和やかな中で聞き取りは始まりました。

そもそも全体学習というのが、体育館ですることだけを言ってるのか、クラスづくりを含めて言っているのかっていうので、クラスづくりがベースとしてない全体学習は意味がなかったと思う。１年生の時も全体学習はしてたけど、「そういうのがあるんだな」程度という感じだったけど、本格的に面白いなと思うようになったのは、先生が担任になってからだから、形としての全体学習をやっていこうとするのだったらあまり意味がないのかなと思う。

「みんなで語り合う人権学習（全体学習）」のベースにクラスづくりが欠かせないというのです。ここで言うクラスづくりは、より分かりやすく言えば、「仲間づくり」です。
そして、形だけ真似しても上手くいかないということをストレートに伝えてくれました。確かにその通りです。この指摘は以前からありました。また、形を取り入れて実践された学校もたくさんあったのですが、見てみると、何か違うのです。そして、継続されずに立ち消えとなっていく。「残念だなぁ…」と感じていました。
その理由を、彼女は具体例を挙げて話してくれました。

クラスづくりの中で、多数決とかじゃなくて、一人一人の意見を最後まで聴くとか、席とかも変なグループでやって、みんなで話ができるようになってた。男子と女子で分かれるわけでもなく、女子の中でも活発な子とあまり話せない子でグループが分かれるわけでもなく、うまく大きいクラス集団としての輪ができてるからこそ、自分の気持ちが言えたと思う。全体の中で話ができなくてもグループで話し合ったときに話ができるのも、この子だったら分かってくれるだろうなって、うまく自分の気持ちを言葉にしにくい子でも自分が本当に言いたいことをこの子だったら分かってくれるなっていうのがあるから言えたと思うから、そういうのがなくていきなりというか、形だけみんなの前で自分の気持ちを言おうみたいなのになると、かなりのリスクがあるから恐い。



班活動をしていたことを思い出しましたが、その意義は、このクラスを受け持ったときに、私の中で明確になったような気がします。
中学生は放っておくと、３～４人の仲良しグループで行動をはじめます。もちろん１人でいる子もいるのですが、だいたいこの人数です。そして、その仲良しグループだけで一日を過ごすことも多くあります。ときには、他のグループと敵対することも。これではクラス全体の仲間づくりにはつながっていきません。
班活動をする意義は、せっかく同じクラスになったんだから、今まであまりよく知らなかったクラスメイトのことも知っていこうよ、ということです。いつもの仲良しグループ以外のクラスメイトとも仲良くなろうよ、ということです。その方が、この１年間、この教室で過ごして、きっと楽しいよ、ということなのです。

本気の人権学習は、――「すべてを変える」

うずしおブランチ代表